



ベニちゃんの クリスマス



yoshie *

べにちゃんは楽しみにしていました。
もうすぐクリスマスだから。

いつもは少ししかくれない、シーチキンの缶詰。
ご主人様、この日は特別に丸々一個くれちゃうんです。

でも、べにちゃんは雲の上の
天国へと旅立ってしまいました。

今は虹の橋で誰か来ないか待っているところです。



ご主人様はどうしているのだろうか？
ふと、べにちゃんは思いました。

そうだ！サンタさんをお願いして、
ご主人様に会いに行こう。

サンタさんは、空の上で
クリスマスの準備をしていました。

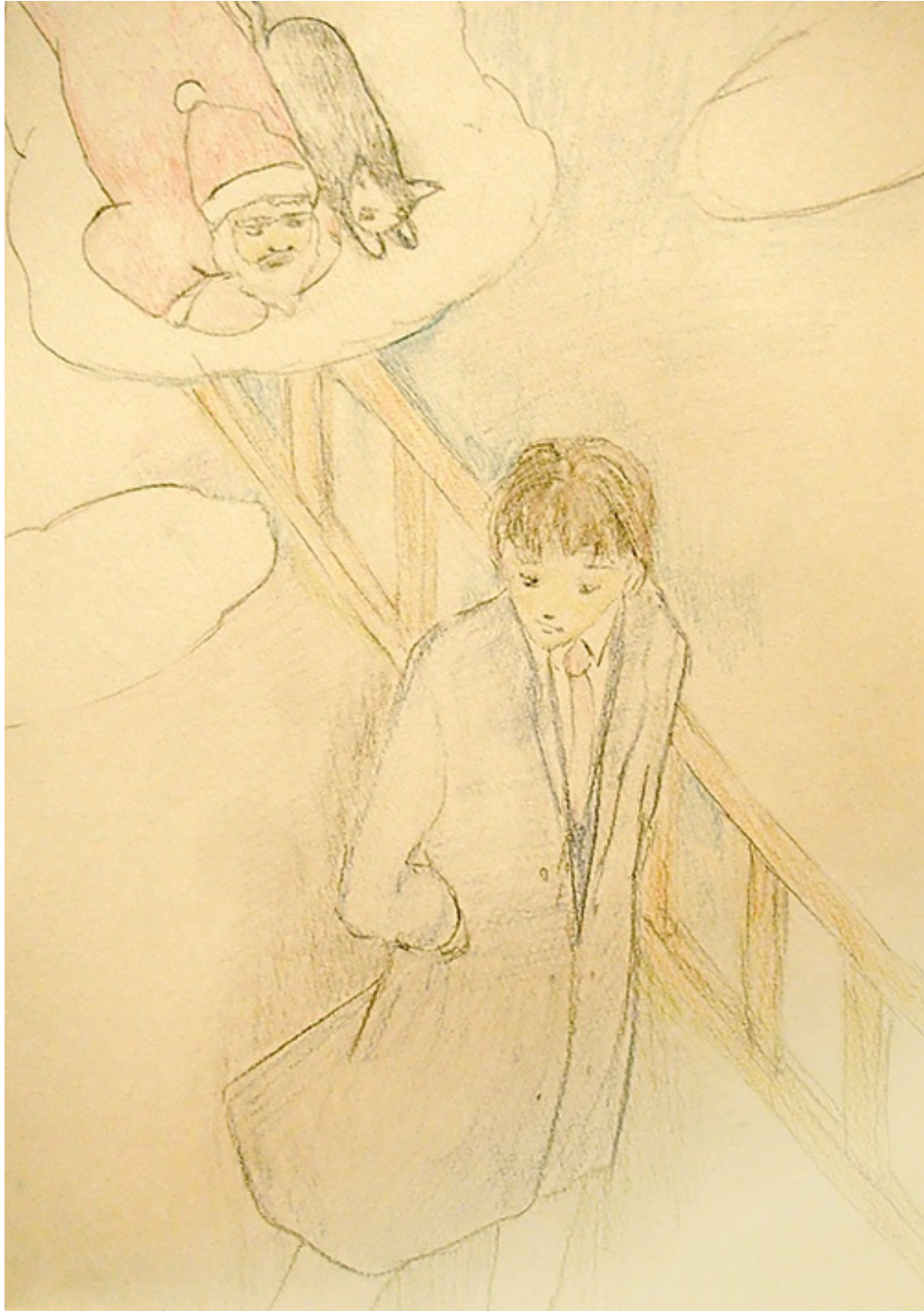
『ねえ、サンタさん、あそこにいる、
ご主人様にクリスマスのプレゼントを
渡しに行きたいのだけれど、、。』



サンタさんは黒白のぶち猫を見て言いました。

『手伝ってくれるのかい？ありがとう』

ところで、私のご主人様だった人は、
何をお願いしたのだろうか？



なにになに、、
『もう一度、べにちゃんに会いたい、、』
『それはできないなあ』

べにちゃんは複雑な気持ちになりました。

もうひとつのお願いはなんだろう？

『新しく、猫が来たらいいな、、』

べにちゃんはもっと複雑な気持ちになりました。

もう、新しいねこをさがしているのかっ！

でもしょうがない、
もうあの世界には戻れないのだから、、

べにちゃんは、

ご主人様にぴったりの猫を探すことにしました。

サンタさんは言いました。

『クリスマスまでに、
ご主人様が新しい飼い猫と出会えるように、
べにちゃんはご主人様にぴったりの猫を探すんだよ！』

サンタさんはべにちゃんに魔法をかけました。



気がつくと、
べにちゃんのもといた世界にいました。
手を見ると透けています。

みんなには見えない透明猫だにゃ。

川沿いに小さな子猫がいました。
どうやら、捨て猫のようです。

近くにいくと、ベにちゃんをみて首をかしげました。

『あんた、だれ？』

暗闇だと見えない黒猫でした。
でも、黒猫にはベにちゃんがみえるようでした。

『君こそ、野良猫かい？』

小さな猫はうなづきました。



『一週間前に捨てられて、なにも食べていないんだ、、』
ちょっとまってて、、

べにちゃんはぴよんと飛ぶと、
川から魚をとろうとおもいました。



死ぬ前は生魚は大嫌いでした。
でも死んでからは何でも興味が湧いていました。

これを焼くと、美味しい焼きサンマの出来上がりにゃ！
(正確には川魚)

あれ？おかしいな？
魚は手をすり抜けて取れません。

そうだっ、透明人間、、いや透明猫になっていたの忘れてた。

しょうがない、このままご主人様のところに行こう、、。

ご主人は、疲れはてた顔で
会社から家に帰るところでした。

べにちゃんは黒猫を先導して、
ご主人様の家を目指しました。



川沿いを落ちそうになりながら歩きました。
この橋の向こう側にや。

黒猫とべにちゃんは、やっとのことで、
ご主人様の家の前まで来ました。

ご主人様が鍵を開けている様子が見えました。

でも、黒猫はもう歩けないようでした。
『もうちょっとがんばって!』

黒猫は、フラフラで、
ついにバタッとたおれてしまいました。

しょうがないにゃ！
べにちゃんはちからのかぎりにご主人様をよびました。

『にゃおーん！』

家の電気がつきましたが、また気づきません。

中に入りたいな、。
手をドアにかけると手が、スッと中に入っていました。

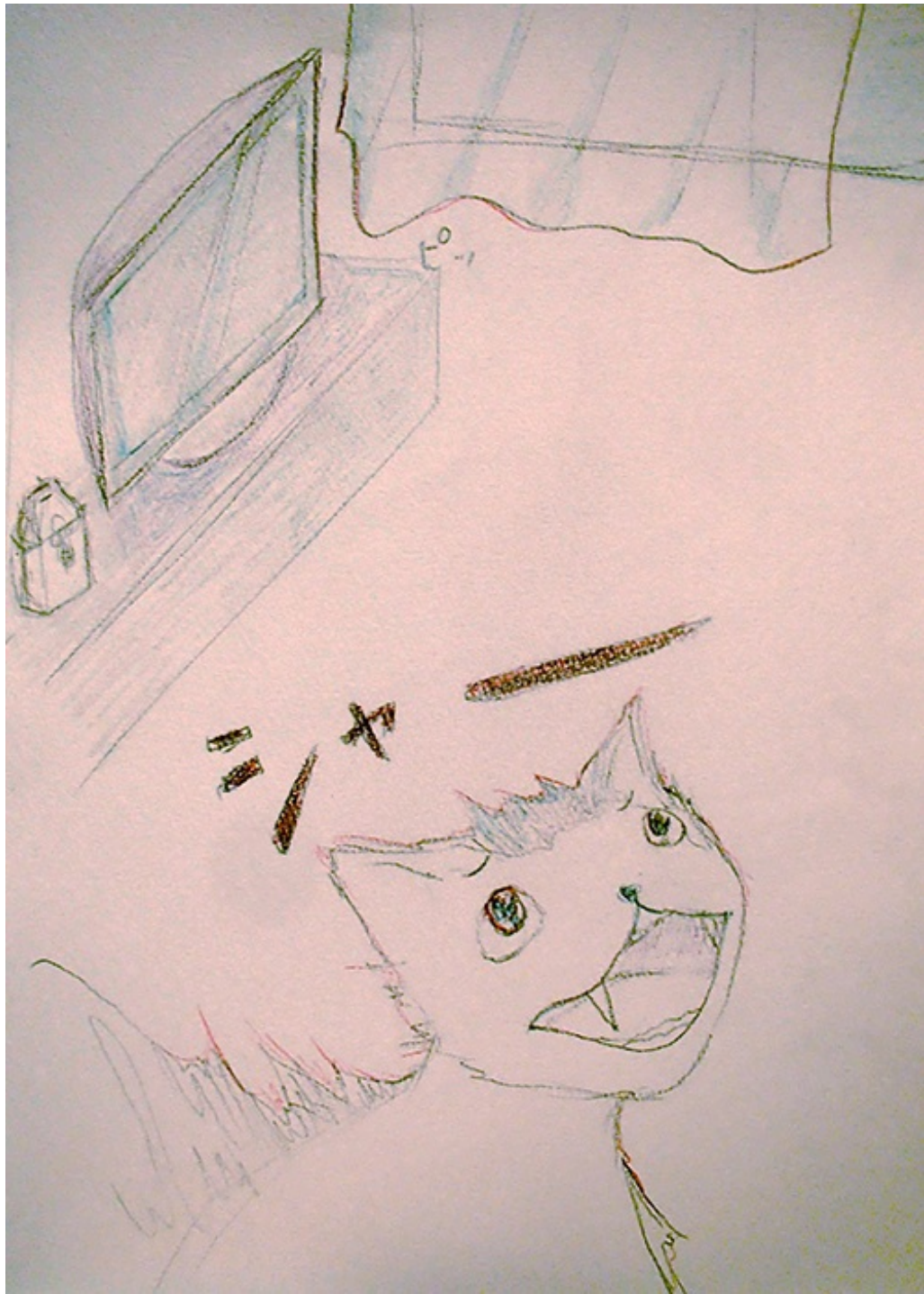
あっそうだ、透明猫になったんだったな。



ご主人様をよびましたが、
テレビをつけて、じっとテレビを見ているだけ。

ジャンプしたり、ソファをパシパシ叩きましたが、
動きません。

にゃおーん！にゃおーん！

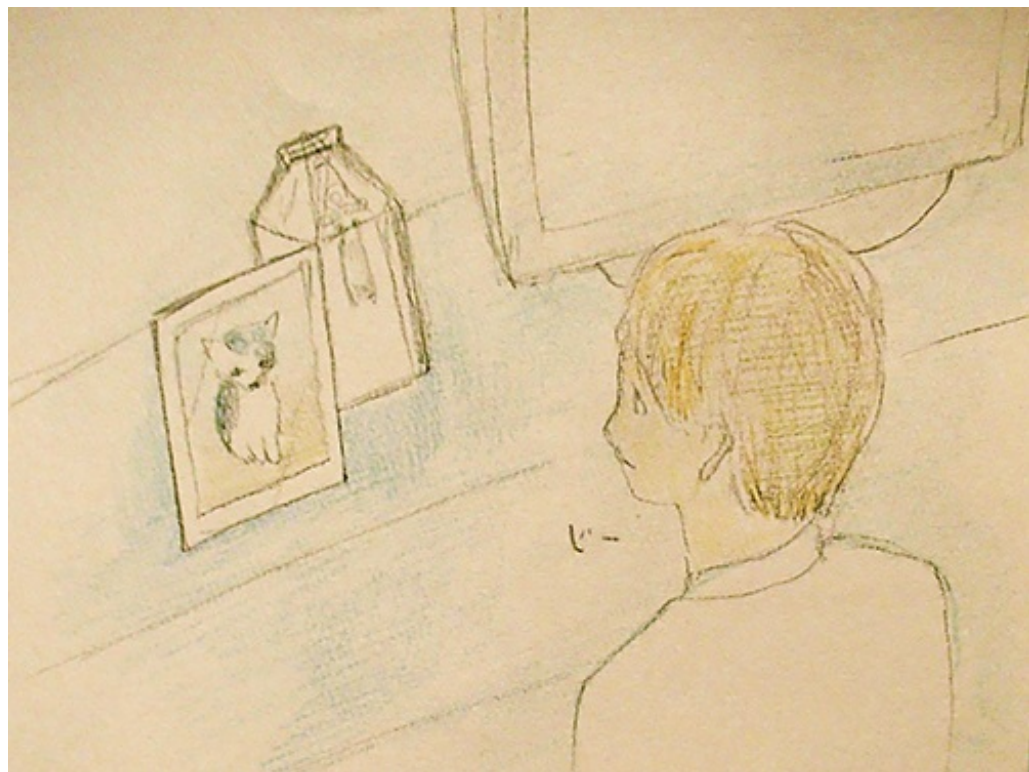


シャー！
『あの黒猫をたすけて！！』

その時、テレビが消えて、カーテンがふんわり揺れました。

『おかしいなあ、停電じゃあるまいし』

ふと、近くにあったべにちゃんの写真を目にやると、
つぎは不思議そうにこちらを見つめました。



ご主人様。
大好きだった、ご主人様。

べにちゃんは思い出すと、なんだか涙が出てきました。

ご主人様のあったかい手で、あの黒猫をたすけてやって！！

ご主人様はカーテンを開けると、
導かれるように外へ出ていきました。

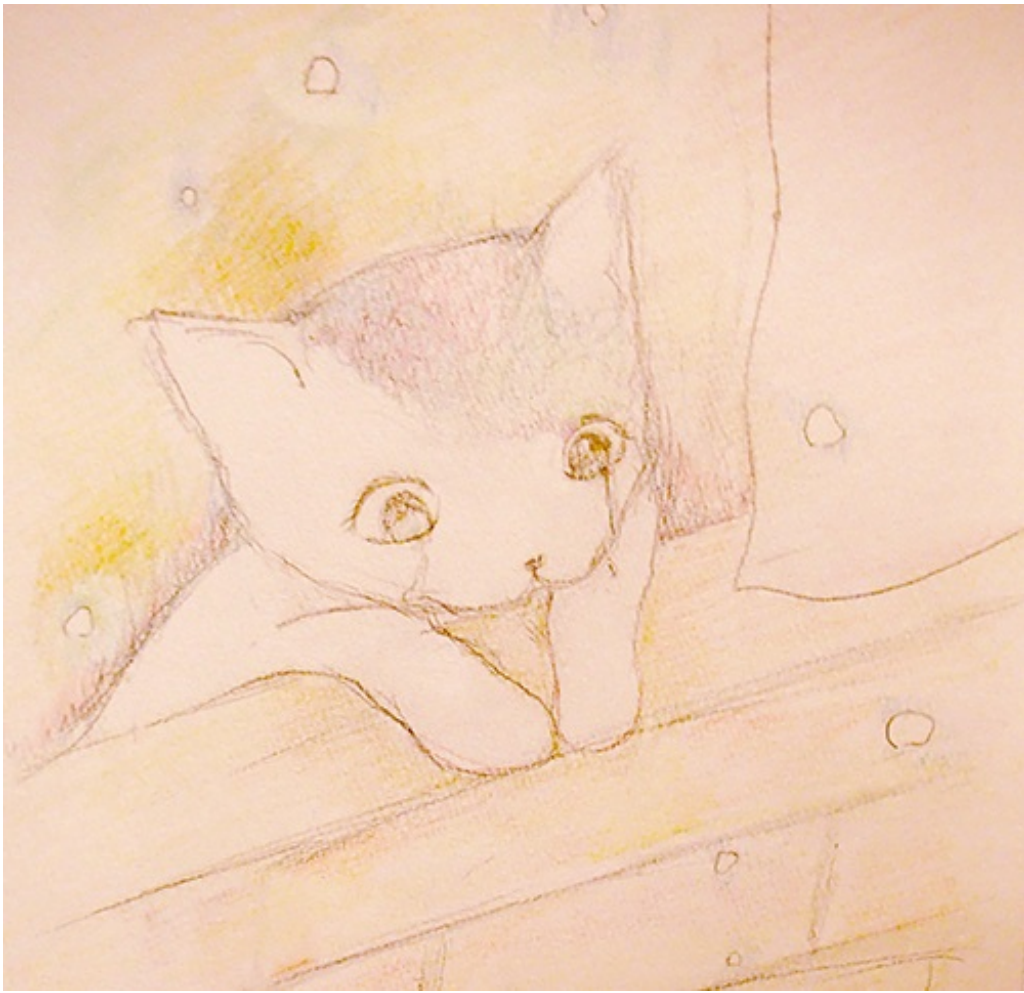


外はいつの間にか雪になっていました。
降り始めた雪が、まだらもようになって、
黒猫にかかっていた。
まるで、べにちゃんがそこに横たわっているようでした。

『べにちゃん！！』

ご主人様は黒猫を見ると抱き上げていました。

そして慌てた様子で、暖かい家に入っていました。



べにちゃんは、もう目の前が
涙で見えなくなっていました。

ふわっと誰かがべにちゃんを抱き上げました。
サンタさん、。

大きなサンタさんがべにちゃんを抱き締めていました。



『もう大丈夫。よくやったね』

サンタさんはベにちゃんに微笑むと言いました。

ご主人様は、新しいペットを無事みつけることができました。

黒猫は目を開けて幸せそうにご主人様を見ている。



ご主人様も、昔のべにちゃんを見るように、懐かしい優しい目で黒猫を見つめていました。

べにちゃんは、サンタさんと空に上っていきました。
そして、一生懸命涙をこらえて言いました。

『サンタさん、ありがとにゃ。
それと、サンタさん今日は超忙しい日でしょ？
お礼に、良かったら猫の手貸すにゃよ！』

『猫の手かあ、、

じゃ、少し手伝ってもらうかな？』



沢山のプレゼントの中には、
べにちゃんの大好きな
シーチキンの缶詰が置いてありました。



2018年7月べにちゃんは旅立ってしまいました。
虹の橋にいるべにちゃんに
素敵なクリスマスが来ますように！！